

第28回ドイツ語圏大学日本語教育研究会シンポジウム
学習者の多様性に対応した高等教育における日本語教育
2022年3月4日（金）～3月6日（日）
ケルン大学

プログラム

第1日 2022年3月4日（金）

会場：Hörsaal D, Hörsaalgebäude, Universitätsstr. 35

- 13:00 – 14:00 受付
- 14:00 – 14:20 開会の辞・挨拶
- 14:20 – 14:30 連絡事項
- 14:30 – 15:30 多様性とクリティカルなリテラシー教育
講師：岩崎典子氏
本講演では、まずクリティカル・リテラシーとジャンル準拠教育の知見をもとに、熊谷由理氏と共著で執筆した『The Routledge Intermediate to Advanced Japanese Reader: A Genre-based Approach to Reading as a Social Practice』（岩崎・熊谷2015年）から例示しつつ、クリティカル・リテラシーとジャンル準拠教育、多様性へのアプローチを紹介します。そして、そこで扱った文化・社会の課題やジャンルは限られていただけでなく、社会も大きく変容する今、私たちは多様性の理解と共生のために日本語教育ではさらに何をどのように読み解き、どのように働きかける力を培うのかについて考えます。
- 16:00 – 17:00 学習者の多様性に対応した教育（ドイツ語・逐次通訳）
講師：ウルリーケ・ハントケ氏
本講演では、特に「できるだけ多くの学生を積極的に授業に参加させるには、どうすればいいのか」、「全員が学習内容についていけるように、どのように個々の多様性に応じればいいのか」、「学習者が課題を自分のものとして受け取れるための設定の工夫とは?」、「学習者の多様性に対応した指導と個別指導を混同しないために…」、「勤務時間内でどのように効率的に授業の準備ができるか」という課題に言及しながら、学習者の多様性に応じた授業の必要性とその実践の仕方について、皆さんと概観していきます。
- 17:00 – 18:30 各大学からの報告・情報交換

第2日 2022年3月5日（土）

会場：Ostasiatisches Seminar, Dürener Str. 56-60

- 10:00 – 13:00 ワークショップ1(多様性に対応した教育/ハントケ氏)
ワークショップ2(多様性とクリティカルなリテラシー教育/岩崎氏)
- 13:00 – 14:00 昼食（同時進行：ドイツ語圏大学日本語教育研究会総会）
- 14:00 – 17:30 ワークショップ1&2（続き）

第3日 2022年3月6日（日）

会場：Ostasiatisches Seminar, Dürener Str. 56-60

- 09:30 – 11:30 ワークショップの結果報告
- 11:30 – 12:00 閉会の辞

招聘講師のご紹介

岩崎典子氏

南山大学人文学部日本文化学科教授兼ロンドン大学 SOAS 言語学科の research associate。長年米国で日本語教育に携わり、ロンドン大学 SOAS 言語学科准教授を経て、現職。専門は日本語教育、第二言語習得、特にオノマトペの使用、日本語授業における読み書き教育のあり方に関心があります。著書、学術論文は多数 (<https://porta.nanzan-u.ac.jp/research/view?l=ja&u=103983>) にわたり、その中には熊谷由理氏との共著の『The Routledge Intermediate to Advanced Japanese Reader: A Genre-based Approach to Reading as a Social Practice』(2015) も川上郁雄氏・三宅和子氏との共編の『移動とことば』(2018) もあります。

ウルリーケ・ハントケ氏

ベルリンのギムナジウムで英語教諭として長年にわたる経験を持ちます。同時に学校教育実践的教員養成センター教科主任として活躍。ドイツに限らず英語圏においても成人教育のためのセミナーも提供。様々なバックグラウンドを持つ学習者への授業、学習者の多様性に対応した指導、またそれに適している課題の考察を専門とします。実践書『Mehr Erfolg im Unterricht - Differenzierung leicht gemacht』(Handke 2016)の著者です。

ワークショップ内容のご紹介

ワークショップ1 (ハントケ氏)

個人とは、社会集団を構成する個々の人を意味します。一人ではなく、ある集団に所属しています。集団の一人一人を到達目標に導くために、課題は誰もがわかり、解決できるものでなければなりません。同時に課題解決を通して、一人一人が何かを得ることが望まれます。一方で、課題は集団の一人一人が協力し、コミュニケーションを取りながら解決できるものでなければいけません。学習者の多様性に対応した指導は、集団の一人一人が、知識や能力を共有しながら学習に取り組む点やそこに費やされる時間も大切にしています。また、それは教師の授業運営や準備において、負担軽減にもつながります。

ですから、ワークショップは「学生の個性を伸ばす」、「グループ活動の利用」、「教師にとっても学生にとっても心地よい授業」という目標のもとに開催される予定です。

ワークショップ2 (岩崎氏)

ワークショップ2では、『The Routledge Intermediate to Advanced Japanese Reader』(岩崎・熊谷 2015)を参考に何をどのように読む活動をするのか、それをどのような発信につなげるのかについて皆さんと具体的に考えたいと思います。また、この reader は中上級レベルを対象にしたものでしたが、初級レベルでは何ができるかも考えます。